

平成 24 年度新潟県体操協会政策方針

平成 21 年度は「トキめき新潟国体」で念願の総合優勝という快挙を成し遂げた新潟県体操協会であった。

しかし、その国体が一過性のお祭りになってしまいそうな平成 22 年度であった。千葉国体では入賞がなく競技得点 0 であり、数年かけた強化も以前の低迷期に戻ってしまった様で、全国レベルに近かったのは男子では金子健三（加茂高）、女子では平松花梨（分水高）の 2 人だけであり寂しい思いがした。

そんな中、協会執行部は将来を見据え思いきった組織改編と新人事を提案した。コンセプトは「強い新潟県体操協会の確立」であり、強化と円滑な運営を重点目標に掲げた。具体策は強化に於いては強化委員会と審判委員会を一本化し、指導過程のなかで採点規則に忠実な指導を確立することであり、円滑な運営は 7 つの委員会を 3 つに統合し、委員会の業務を明確にして価値観を共有することである。

平成 23 年度は 3 月 11 日に発生した未曾有の東日本大震災で日本中が混乱している中ではあったが、体操を愛する選手たちのためにも、一歩ずつ前に向かって進めるよう規約改正と役員改選をし、南波会長のもと新しい体操協会が誕生した。強化委員会は国体強化を中心に年間計画をたて、山口国体で入賞できるよう土日合宿を繰り返したが成果がともなわず無念の結果になった。期待された少年女子は 14 位、新体操は 17 位、少年男子は予選敗退、成年男女は残念ながらブロック予選での敗退であった。

一方、国体強化と併せて始めたのはジュニア特別強化 5 年計画である。責任者に小野武彦強化副委員長を充て小学 4～6 年生の上位選手を中心に月 1 回の合同練習会を開催している。選手のモチベーションアップは勿論、指導者間の大切な情報交換の場となり成果は出始めたところだ。小学生の選手権である第 6 回全国ブロック選抜 U-12 において本県選手は活躍し、男子跳馬で中川諒哉（ジムナスティック新潟）が 1 位になった他、女子では吉田優香（同）が個人総合で上位に入るなど期待される選手が多くなってきた。平成 24 年の第 7 回 U-12 大会は上越リージョンプラザで開催することになっており、本県選手のレベルアップに期待したい。また、中 3 で山口国体にも出場した小野大輝（大潟町中）が全中大会において鉄棒で見事優勝する活躍をみせるなど明るい話題もあった。

本県の体操練習施設は行政の理解もあり、全国でもトップクラスの恵まれた環境にある。この施設を効果的・効率的に使用し選手を育成するのは指導者であり、お互いを認め合い協力し、熱意をもって指導していかなければ先は見えてこないだろう。

今ここに先人達が築きあげてこられた伝統と榮譽を誇りに「強い体操新潟」の復活を目指し「プロ意識をもった集団」として、皆で刺激しあい、そして大きな夢に向かって力を合わせていこうではありませんか。

平成 24 年度運営重点施策

- 1 「強い新潟県体操協会」を築くために、ジュニア特別強化 5 年計画を最重点とする
- 2 財源不足を解消するために、役員等の会費と大会参加料を値上げする
- 3 円滑な運営を図るために、より多くの協会の協力体制を確立する
- 4 権威ある全国大会で活躍した選手には顕彰をする（表彰規程の作成：内規）
- 5 各種別とも岐阜国体の出場権を獲得し、入賞を目指す
- 6 第 7 回全国ブロック選抜 U-12 大会を成功させる